

無農薬、無肥料、無除草剤で
「皮まで安心なレモン」の
安定収穫をめざして

『旨いレモン、あります!』

西川 直宏

紀の川雑草レモン農園 Plus

□ 主な果実の収穫カレンダー

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	(月)
レモン	無農薬													
		(※9月からはグリーンレモン)												
		(※品種はクックユレカ・アレンユレカ・マイヤー)												
すだち	無農薬													
かぼす	無農薬													
璃の香	無農薬													
		(※9月からはグリーン璃の香)												
柚子	無農薬													
		(※9月からは青柚子)												
		(※品種は多田錦・木頭)												
日向夏	無農薬													
		(※品種はひゅうがなつ)												



紀の川雑草レモン農園 Plus

農園所在 和歌山県紀の川市貴志川町岸宮 425

代表者 西川 直宏

住所 〒640-0404 和歌山県紀の川市貴志川町鳥居 250

メール koedakeno.nnao@mineo.jp

お問い合わせ (9:00 ~ 17:00) 090-1077-7199

■ 雑草レモン？

□「紀の川雑草レモン農園 Plus」

当農園は、「無農薬」「無肥料」「無除草剤」の自然栽培にこだわari、夫婦二人三脚で土づくりを行っている小さな農園です。土壌の様相や樹木の状態の細部に配慮できる広さの土地で、レモンをはじめ、香りの豊かな柑橘をメインに多種多様なフルーツを丁寧に育てています。「レモンは酸っぱくて苦いもの」そんな風に思われている方もいらっしゃるかもしれませんが。私達はレモンのそんなイメージを払拭したいと考えています。えぐみや雑味が無く、酸味と共に舌先に感じるほのかな甘味。そして収穫する時期によって微妙に変化する爽やかな香り。それらが合わさってこそ、レモン本来の味わいとなります。

その味わいを引き出すために、農薬を使用せず、雑草たちと共存してレモン栽培を行っていることが当農園最大の特徴です。私たちが育てた果実には傷跡がありますが、それは自然栽培のなかで風雨にさらされながら、病害虫と必死に戦ってきた証。安全安心にこだわった自然栽培の国産レモンを、ご自宅でも店頭でも、お料理でも楽しんでいただけたら幸いです。

目次

■ 雑草レモン？

□「紀の川雑草レモン農園 Plus」—— 2

□ 無農薬栽培との出会い—— 3

□ 雑草と共生にチャレンジ—— 3

■ 無農薬と雑草の「根っこ」の話

□ ところで、なぜ「雑草」？—— 5

□ 庭先の柚子と母親のつぶやき—— 8

□ 自然な栽培—— 9

□ 主な果実の収穫カレンダー—— 11

『おいしいレモン、
あります！』

西川 直宏



レモンをはじめ、すだちやかぼす、日向夏など、多くの品種を栽培しているので、農園の名称に「Plus」と入っています。

そして今日、当園では「雑草」はレモン栽培には必要不可欠なものとなっています。

土壌づくり開始後、農薬や肥料も使用しないレモンの自然栽培に完全にギアチェンジしました。これからめざすところは、雑草を武器にした、「無農薬・無肥料・無除草剤の自然栽培レモンの安定収穫」です。

和歌山県のレモン農家「紀の川雑草レモン農園 Plus」の夢に辿り着くのはもう少し先になりそうです。

うやく立つことができました。

「雑草レモン」を育てるためには雑草をできるだけ多く生やし、草の根や刈り取った草を利用して、土中のミミズや微生物が活動し易い環境をつくるのが重要です。そのため我々の労力を全て注ぎ、レモンの木々自身の力を引き出すことで、自然な風味をもった果実に仕上がります。

□雑草と共生にチャレンジ

雑草と共生する土壌づくりのため、まずは除草剤を使わない農法を取り入れる事にしました。定期的に手作業で雑草を刈り、刈った草はそのままにして、畑の環境を良くする土台資材として利用しました。こうして「雑草レモン」のスタートラインによ

□無農薬栽培との出会い

私が農業に関わるようになり早40年。「雑草は厄介なもの」そんな風に考えていた時期が私にもありましたが、とある農園を営む方との出会いがその思い込みを払拭してくれました。その方は、除草剤は使用しない、農薬も散布しない、肥料も施さないという方法で栽培していました。「自然栽培は環境に優しく、虫たちが戻ってくる。人の健康にもつながり良い事ばかりですよ」と屈託のない笑顔で語られる姿に、私は衝撃を受け、それから自身も雑草と共生する土壌づくりや無農薬栽培に取り組んでいます。



土づくりがモットーの紀の川雑草レモン農園 Plus です。



あります。

雑草には色々な特性の異なるものがあります。たとえば、人の背丈以上に成長するものから、10センチメートル足らずの草。地面の際で誤って刈ってしまうと枯れてしまう草や、根を1メートル近くまで土中に深く延ばす草。多くの特性をもった雑草が共生します。それぞれの長所短所を活かしつつ、互いに支えあって生きています。また前述したように虫の住処にもなり、虫たちとの共存も行っているのです。

我が農園の宝である雑草も、定期的に刈り、更新しています。その時に最大限の注意を払うのが、草を刈る高さです。草には成長点があり、その位置よりも低く刈ってしまうと死んでしまいます。成長点が高く、背丈の低いハコベラは最も慎重に扱う必要があるのですが、無我夢中で草刈り機を振り回していると、「アッチャー！」ということになってしまいます。なので、慎重に慎重にと心掛けています。

■無農薬と雑草の「根っこ」の話

□ところで、なぜ「雑草」？

ここで、雑草の能力についてお話ししましょう。

雑草は生態系に作用しながら、土壌環境を改善してくれます。

- 1 ミミズ達が繁殖しやすい環境になる
- 2 土を食べたミミズの糞が果樹の栄養になる
- 3 刈った草や生えている草が畑の水分を保持してくれる
- 4 畑に刈った後の草が畑に堆積し、微生物によって分解され果樹の栄養になる
- 5 草の根が土の中でミミズなどの小動物の動きやすい導線を作ってくれる
- 6 雑草群がクモやテントウ虫などの昆虫の住処となり、彼らが果樹や果実につく害虫を食べてくれる

など、雑草の能力を挙げればきりがありません。何十年も自然栽培を行っている農園の雑草は、1平方メートルあたりに百種類以上の雑草が生育していると伺ったことが



が、特に真夏の作業は過酷なので、失敗が多くなります。

私の草刈りミスが大きな気づきになった出来事がありました。梅雨の合間の晴れた日に、農作業効率を上げるため、レモンの木の株周りで地面スレスレまで草刈りを行ったことがありました。その時は草がきれいになって、土壌にとって良い環境を作ったと満足していました。やがて梅雨が明け、果実が成長したところ、レモンが突然緑色から黒色に変化しはじめました。その理由は、それまで草むらの中を住処としていたダニなどが、草が刈り取られたことをきっかけにレモンの木々に上り、果実などをかじり始めたからです。

つまりダニなどの虫たちは、もともと雑草と共存しており、人間が草刈りなどで自然界に手を加えることでそのバランスが崩れ、人間の大切なレモンを仕方なくかじり始めたのです。むやみに雑草を取り除くことが無農薬栽培には大きなマイナスになることを体感した出来事でした。

私が草刈りの極意を極めることも、無農薬レモンの安定収穫同様、もう少し先のことになりそうです。近鉄バファローズで活躍された元プロ野球選手の鈴木啓示さんの座右の銘、『草魂（そうこん）』を思い出します。

□庭先の柚子と母親のつづやき

雑草以外にも、植物の力を感じた出来事がありました。以前、我が家の庭先に柚子（ゆず）の木が一本ありました。60歳になる西川が幼い頃からあった記憶があるので、かなりの古木だったと思います。それは農薬散布や肥料は一切施さず、自然のままの姿でした。木々の特性上、多少の隔年着果はありましたが、それでも毎年それなりにきれいな果実が収穫できていました。当時母親は「なんにも世話せえへんのに、えらい柚子やなあ」と喜んでいたので憶えています。

後に、その柚子の木が、なぜ「結構きれいな果実」をつくれたかを知りました。人間が肥料を与えてはくれないし、害虫も駆除してくれないので、しかたなく自分の力（植物ホルモン）で成長していたのです。根を土中に深く延ばして養分を探し取り、木自身が体力をつけ、自らの力で果実を守っていたのです。

私が「無農薬」「無肥料」「無除草剤」で果実を育てようと考えることを後押ししてくれた思い出です。でも今はもうその「ゆず」の木は伐採したのでありません。私事で恐れ入りますが、2023年11月に孫ができました。奇しくも、彼女の名は「ゆず」でした。





「旨いレモン、あります！」

発行元 紀の川雑草レモン農園 Plus

著者 西川 直宏

発行日 2024.02.01

デザイン Tsumugite design

本書は著者 西川による真実を記しております。
 本書の転載、写真等の無断掲載等はおやめください。
 また本書をお読みいただき、ご感想などをメールで、
 お知らせくださればうれしいです。

「旨いレモン、あります！」 紀の川雑草レモン農園 Plus / Copyright © 2013

□ 自然な栽培

私は農薬や化学肥料、除草剤を利用した栽培を否定するわけではありません。以前は西川も慣行栽培（農薬や化学肥料を使用）を行っていました。『良いか悪いかではなく、「自然」か「不自然」かを見極める』ことを大切にし、その結果として自然な栽培を選んでいただけです。焼酎が好きで西川は、レモンを焼酎に絞ったあと、皮ごとグラスに浮かべるから、無農薬の自然な味わいでないといけないのも理由ですが・・・。

農薬や化学肥料、除草剤を使用しない自然な栽培は、慣行栽培よりも手間がかかります。草刈り時間は増え、農薬散布の代わりに殺菌効果があるとされる穀物酢の散布や、果樹の根本に産卵のために寄ってくるカミキリ虫を素手によって捕殺するなど、慣行農法では必要のない多くの時間を費やします。そのうえ慣行栽培に比べて収穫できる量が少なく、果実の見た目も悪くなります。

それでも、つくる人も、届けてくれる人も、食べてくれる人も、笑顔でいられるように、無農薬、無肥料、無除草剤の「皮まで安心なレモン」の安定収穫をめざして頑張ります。「旨いレモン、あります！」と元氣を出して、口癖の「知らんけど」を封印して ■

日々の
栽培記録より